

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議 次 第

〔 日 時 平成 31 年 3 月 11 日 (月) 13:30~15:00 〕
〔 場 所 飯田合同庁舎 講堂 〕

1 開 会

2 あいさつ

3 報告事項

(1) リニアに関する国の動きについて

(2) リニア駅周辺整備の検討状況について

4 協議事項

(1) リニア関連地域振興策の取組実施体制について

(2) リニア駅近郊エリアのまちづくり構想の策定について

(3) 伊那谷自治体会議への木曾地域の参画について

5 そ の 他

6 閉 会

(別 紙)

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議
出席者名簿

(敬称略)

職 名	氏 名
知 事 (座長)	阿部 守一
飯田市長	牧野 光朗
伊那市長	白鳥 孝
駒ヶ根市長	杉本 幸治
南信州広域連合 (平谷村長)	小池 正充
上伊那広域連合 (南箕輪村長)	唐木 一直
上伊那地域振興局長	堀田 文雄
南信州地域振興局長	土屋 智則
伊那建設事務所長	高橋 智嗣
飯田建設事務所長	坂田 浩一
リニア整備推進局長	水間 武樹

リニア関連地域振興策の取組実施体制について

1 前回自治体会議での確認事項

- 具体的な事業の進め方を、次のステップに進める段階
- 取組実施体制は、民間にも参画してもらい一緒に考えていくことが必要

2 取組実施体制の基本的な考え方

- (1) 行政と民間が連携した「新組織」を立ち上げる
- (2) 既存の組織や取組体制を活かす
 - 自治体会議とエコまちフォーラムとの共同プロジェクト、広域DMO など

3 新組織のイメージ

- (1) 想定される取組（プロジェクト）※適宜追加を検討

プロジェクト	想定内容
まちづくり	知的対流拠点の形成
二次交通	自動運転の活用、公共交通の路線再構築
大都市圏との対流 ・情報発信	ダーチャ、二地域居住の促進
観光	広域観光ルートの造成、インバウンドの推進
産業	知の集積地の確立、災害時のバックアップ拠点の整備
食と農	農産物のブランド化、アグリビジネスの展開

- (2) 各取組（プロジェクト）にプロジェクトリーダーを設置
- (3) 各取組（プロジェクト）を一元的に統括する組織の構築
 - 各プロジェクトの進捗管理
 - 統括マネージャー（仮）の設置
- (4) 機動的な取組のための事務局体制の強化
 - 常勤の専任スタッフの設置

4 新組織の構築に向けた検討課題

- (1) 伊那谷自治体会議との関係の整理
- (2) 新組織における権限の整理
- (3) 各取組（プロジェクト）における行政と民間との役割の整理

リニア駅近郊エリアのまちづくり構想の策定について

資料 5

リニアの開業を見据え、飯田市及び周辺町村(松川町、高森町、豊丘村、喬木村、大鹿村)を含めた広域エリアにおけるまちづくりの構想を策定する。

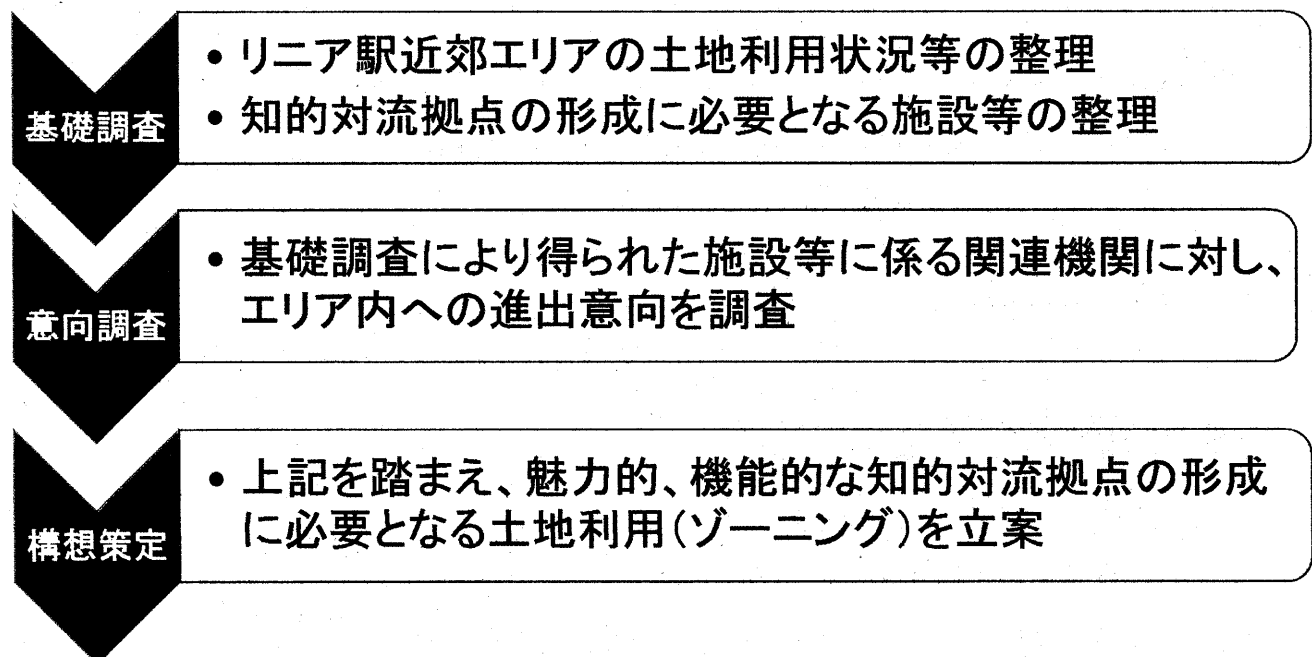
背景	1 リニアバレー構想 【学術・研究機関が立地する“知”の集積地の確立】 ✓ 最先端産業や地場産業の支援機能、大学連携組織、高等教育機関等の結集 ✓ 産・学・官・地域の人的交流の場、ナレッジスクエアの形成	2 スーパー・メガリージョン構想検討会の中間とりまとめ(H30.7) (中略)中間駅は、多様な人材が活発に行き交いクリエイティブな交流が生まれる、 新しい知的対流拠点となる可能性を秘めている。
		3 各市町村の企業誘致に関する計画等
視点	■ 構想策定に係る検討の視点 ・ <u>リニア駅を核とした</u> 知的対流拠点の広域形成 ・ 関係分野(食と農、健康・医療等)を含めた検討 ・ エリア内外(上下伊那)の関連事業等との連携、効果の波及	■ スーパー・メガリージョン構想検討会での長野県からの提案 ・ 民間投資の促進 ・ 首都圏災害時のバックアップ機能の整備 ・ 自動運転モビリティなどの先端技術の活用

目指す姿(例示)

- 研究機関、高等教育機関等の誘致促進による伊那谷の学術研究機能の強化
- リニアと伊那谷全域を結びつける「核」となる知的対流拠点の形成

1

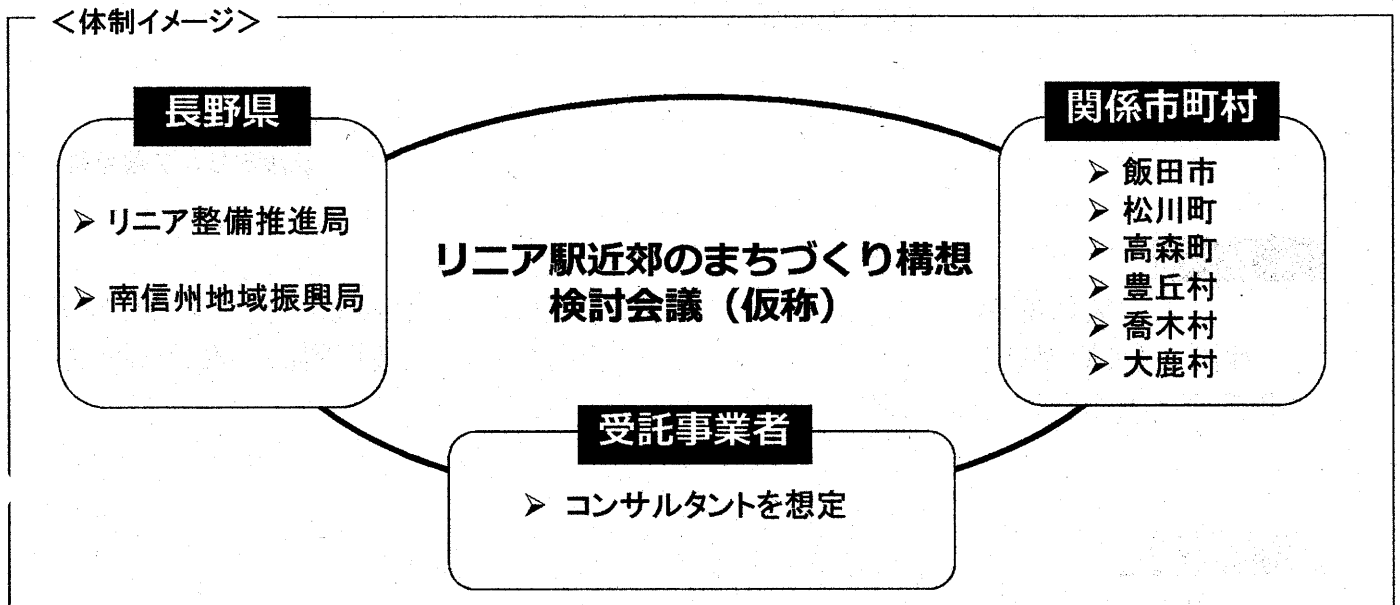
事業の内容



2

まちづくり構想の検討体制

以下の体制による会議を定期的に行い、まちづくりの構想を検討。



3

実施スケジュール

- 平成31年度中を目途に構想を策定。
- 構想策定後、その実現に向けた各主体の取組について検討を進めていく。

4

「リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議」への 木曾地域の参画について（案）

建設部リニア整備推進局

1 趣 旨

リニア中央新幹線の整備を「リニア活用基本構想」における「リニア3駅活用交流圏」（長野県駅、山梨県駅、岐阜県駅の駅勢圏）の地域振興につなげるため、伊那谷自治体会議に木曾地域からも参画いただく。

2 参画方法

オブザーバー

※今後の検討課題の展開に応じて構成員としていくことも検討

3 参画者

- ・木曾広域連合代表（1名）
- ・木曾地域振興局長

4 今後のスケジュール

新年度（2019年度）開催の伊那谷自治体会議からの参画を想定